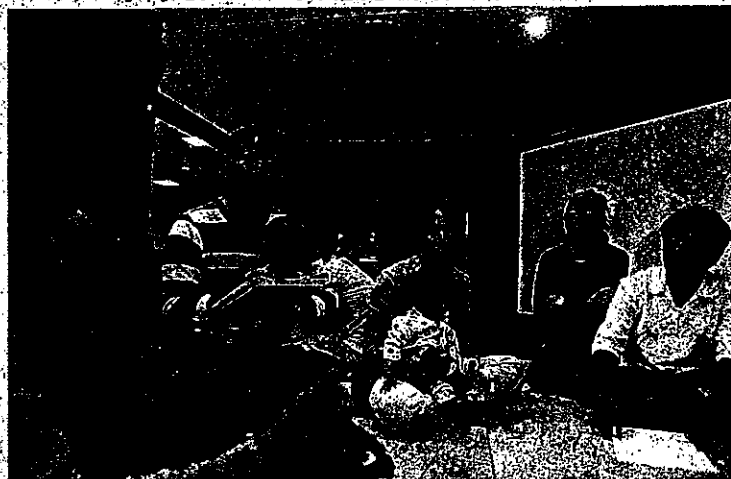


安藤代表理事（右から2人目）と一緒に、子育てについての意見を交わす参加者



パパ目線で育児を考える

福山 意見交換や読み聞かせ

子育て中の父親が集う子育てパパ座談会が4日、福山市西町のエフビィコRiMであった。開催中の「ふくやま子育てパパ活躍ウィーク」の関連イベントで、父親と子ども15組の36人が参加。育児参加について父親同士が意見交換したり、絵本の読み聞かせをしたりした。

NPO法人フェアサートリング・ジャパン（東京）の安藤哲也代表理事（57）が講師を担当。育児休暇の取得率の低さなど、父親が育児に関わる時間が少ないと現状の課題を指摘した。「父親

が子育てに参加するほど子どもの自尊心が高まる」などとし、主体的に育児に関わる大切さを呼び掛けた。

その後、参加者同士で車座になって意見交換をした。参加者は「子どもをどう褒めさせている」「乳離れをうまく進める方法は」

など、相談したり経験を披露したりした。

長男悠君（9）と一緒に参加した会社員大杉啓悟さん（32）は「春日町」は「同じ立場の人の意見が聞けて良かった。子どもと関わる時間をもう少し増やしたい」と話していた。

（菊本 孟）

子育てパパ街拳げ応援

福山市「活躍ウィーク」始まる

男性の育児参加を促す福山市の「子育てパパ活躍ウィーク」が3日、始まった。9日までの1週間、協力企業・団体による親子イベントが開かれる。市の人口減少対策の一環で、男性が子育てに積極的に関わる環境を目指す。(吉原健太郎)



親子でペッパーを操作したプログラミング教室

企業協力 親子イベント続々

この日の「ふくやま子どもフェスティバル」では、親子で参加できるプログラミング教室があった。親子約110人が参加。ソ

フトバンクの人型ロボット「ペッパー」を使い、好きな言葉をしゃべらせたり、決まった動作をさせたりするプログラムを親子で協

力して組み、実際に動かした。長男(8)、次男(5)と参加した同市北美台の会社員吉田晶さん(41)は「プロ

ラムは親子とも初体験で面白かった。子どもと過ごせる休日には、こういったイベントで一緒に楽しみたい」と話していた。

子育てパパ活躍ウィークは、市や市内の企業、子育て団体などでつくる「みんなのライフスタイル応援会議」が発案。イベントのほか、同会議が募った応援企業は期間中、従業員の休暇取得や早帰りの促進などに取り組む。応援企業の募集は9日まで続ける。

就学前の子を持つ保護者に市が行った2018年の調査では、父親の育児休業の取得率は3.1%。市

は人口減少対策として、21年度に10%への引き上げを目指す。市企画政策課は「イベントと職場の取り組みを合わせて、父親の子育て参加をさらに進めるきっかけにしたい」としている。

期間中、同市西町のエフピコRiMでは、4日に「子育てパパ座談会」があり、子ども向け施設「えほんの国」は9日まで、遊具製造タカオの「ギザギザ葉っぱ」は6～9日に父親の入場料が無料になる。9日には、同市千代田町の「食と農の交流館」で魚をさばく料理教室がある。